



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第24号

発行日
平成18年6月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|--------------------------|----|--------------------------|
| P2 | 平成18年度PV定期総会 | P6 | 新緑の公募観察会 |
| P3 | 小なきり浜清掃
田中自然保護官プロフィール | P7 | 平成17年度活動記録
退会挨拶 山根 浩二 |
| P4 | ミヤジマトンボ
生息地の環境整備、清掃 | P8 | 岩船岳登山、春の観察会 |
| P5 | 入浜海岸の自然調査 | P9 | 宮島の桜調査、編集後記 |



カヤラン（ラン科カヤラン属）

昨年5月上旬、白糸川沿いの登山道を歩いていたとき、木の枝からぶら下がり咲いているのを見つけました。

茎の長さ10cm、葉の長さ5cm 弱の着生ランである。草丈のわりに、大きな花をつけていました。2列生する葉の形状がカヤの葉に似ているのでこの名があります。

昨年9月の土石流で登山道が流失しましたので生き残っているかどうか心配です。

環境省広島事務所人事（平成18年4月）
環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
自然保護官 田中 静佳
（農林水産省山口農政事務所より転任）
（田中さんのプロフィールはP3に掲載）

（写真・文）池下 宏

PVの会平成18年度総会 活動計画決まる

PVの会では4月8日(土)宮島支所会議室に於いて平成18年度定期総会を開催しました。出席会員34名(会員総数41名)委任状提出者は3名でした。

(出席者) 足立 池下 井上 岩崎 小方ペア 小川 佐渡 佐藤 島 新川 末原 高光
竹内 田村 坪井 中道 中本 名越 西 野呂田 平田 平山 古川 前田(勲)
前田(正) 舛田 松尾 宮崎 村上 矢吹 横山 横路 六重部
環境省広島事務所 高木、田中自然保護官

定刻10:30分に開会、司会の足立副会長から「堅苦しくない和やかな総会に」という言葉で始まりました。

村上会長から「昨年は60回余の行事を実施、本年も自然・文化財の保護のためPVの出番、6名退会で本年41名ですが、昨年同様積極的な参加を」と挨拶。

田中保護官の着任挨拶のあと、高木保護官より「登録更新でリフレッシュな気持ちで」との挨拶があり、PV登録要領と活動について説明されました。特に活動結果のフィード

バック・・・記録に残すことは宮島の宝を残すことが印象に残りました。



次に出席者数、委任状提出者数の確認を行い総会が成立し、議事に入りました。

◎ 総会議事(議長 村上会長)

幹事会原案のとおり、次の5議案につき個々に報告、審議がなされ、いずれもとくに異議なく承認(総会決議)されました。

A、平成17年度活動状況について

B、〃 決算(案)について
野呂田監査員から適正であるとの監査報告がされました。

C、平成18年度活動計画(案)について

各部会長から説明



五重塔、満開の桜の下で
総会出席者の記念撮影

D、平成 18 年度予算（案）について

E、会則改定

◎その他

井上会員より桜樹勢実態調査の協力に対するお礼とその概略の報告がありました。

◎ 総会後の活動

午前中に総会を終了し満開の桜の下、千畳閣・五重塔をバックに記念撮影。午後からは恒例の環境整備部会行事「小なかり浜」清掃を行いました。

一年ぶりに訪ねた浜は台風の襲来で発泡スチロールや流木、空缶、ビン等が打ち上げられ、ハンゲショウやハマゴウなど貴重な植物が埋もれてしまっている状況は例年どおり。今年は巨大な流木を徹底的に取り除く作業に執念。30 余名の力と知恵を結集すればやり遂げてしまえるものと感心。PV のパワーを見る思いがしました。但し頑張りすぎと事故のないようにという総会での注意が気になりました。今年もこのパワーで総会で決まった活動に積極的に取り組んでいけることでしょう。

（ 岩崎 義一 ）



巨大な流木除去作業

田中自然保護官プロフィール

氏名 田中 静佳（しずか）

出身地 山口県岩国市

家族 妻、母と三人で暮らしています。子どもは二人いますが、長女は嫁ぎ、長男は愛知県で暮らしています。



経歴 昭和 48 年 4 月
農林水産省広島食糧事務所

平成 15 年 4 月 同
所山口事務所に異動

（平成 15 年 7 月の組織改編により山口農政事務所となる）

本年 4 月 環境省中国四国地方環境事務所
広島事務所 自然保護官

趣味 数年前までは野球やソフトボールをやっていましたが、今は近隣の山登りなどをしています。

ひとこと 私は自然環境保全の仕事を担当したくて、この職場にやってきました。美しい自然を守るため、器用ではありませんが、一生懸命努力したいと考えています。どうかよろしくお願いいたします。

自主観察会予告

日時 8 月 26 日（土） 8:30

集合 宮島口栈橋前

内容 自然観察（シロバイ他）
海岸植物調査フォロー

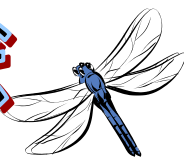
行程 宮島口栈橋（9:00 出航）～大川浦
上陸～大川越～大川浦～大江浦～室浜
～宮島栈橋（15:30 頃到着）

天候 小雨決行

担当幹事 小方ペア 高光

申し込み 渡船の手配、荒天時の連絡のため参加される方は必ず 8 月 21 日（月）までに前田（勲）に申し込んでください。
（ 観察部会 ）

呼び戻そう ミヤジマトンボ



生息地の環境整備、清掃

3月13日(月)寒風吹く中、海路、宮島の西部海岸へ渡り、環境省・県とミヤジマトンボ保護管理協会の合同行事として、総勢約30名(PVメンバー14名)が生息地の環境整備及び清掃を実施しました。

(参加者) 足立 池下 岩崎 近藤 新川
中道 野呂田 古川 前田(勲) 村上
森 柳瀬 矢吹 横山 高木自然保護官

生息地が相次ぐ台風の襲来で壊され、ミヤジマトンボは絶滅の危機にひんしている。絶滅危惧種に指定されていて、どこにでも生息できるトンボではない。森から流れ出る清水が、海水と微妙なバランスで混じり合う泥状の湿地で繁殖する。その生息地が近年の台風による砂の流入で湿地が埋まり、急激に生息環境が劣悪化・湿地排水路のプール化へドロ化及びヒトモトススキの密生。

今回は 排水路の浚渫、砂流入防止のための土のう積み、ヒトモトススキの刈り取りな



ヒトモトススキの刈り取り

どをおこない、生息環境の回復を図って産卵の場に戻す取り組みである。

浜辺はハマゴウが群生しているが、大量のゴミ-----カキ養殖パイプ・キャンプ道具の残がいなどが散乱していて、トンボのいる湿地には踏みつけられた足跡がいくつもあった。

PVの会はこの海岸と湿地の清掃活動を担当、まだまだ取りきれないほどのゴミの山でした。締めくくりに広島市立森林公園昆虫館の坂本学芸員からミヤジマトンボについて

説明があり、生息地の環境回復には3～4年かかるのでPVの会にも協力をお願いしたいとのこと。ミヤジマトンボに関する知識と興味が高まった。

1936年のミヤジマトンボの発見以来70年目にあたる今年に保護活動がスタートしたことは意義深い。生息地の環境回復は息の長い取り組みになりそうである。世界遺産宮島の名を冠したトンボの存在の重みをひしひしと感じた。(岩崎 義一)

◇ミヤジマトンボ◇

ミヤジマトンボはシオカラトンボに似て体長は約7cm 透明の羽に胴体は雄が白色、雌は黄色で黒いシマがある。1936年に宮島西南部の山白浦で結城次郎氏により発見された。

日本では宮島に限って生息し、その原種は、



中国南部の広東・福建省、世界でも中国南部などにしかおらず、環境省の絶滅危惧種・「レッド・データ・ブック」に危急種として記載され、広島県の野生生物保護条例でも特定種として厳しい捕獲禁止の対象となっている。

宮島では80年代までは百匹単位で確認できたが、最近は数カ所の生息地を合わせて、10～20匹程度しか見つからない。

生息環境の回復策などを探るため、国、県、市や研究者らの保護管理連絡協議会が昨年発足した。また環境省はこのほど「ミヤジマトンボ」を特別地域保護種に指定し、悪化する生息環境の保全に対処することになった。

入浜海岸の再生へ

第1回自然調査 新川 博

日時 5月14日(日) 9:00~14:00

(参加者) 小方ペア 小川 佐藤 新川 末原
高光 野呂田 前田(勲) 舛田 村上 柳瀬
横路 六重部 高木自然保護官

3月26日(日)の下調べをもとに次のような調査が必要ということになりました。

- I、入浜周辺の地図を作成し、動植物などの調査結果を地図に落とす。池の水面と海水面の高さの測量をする。
- II、調査は池(仮称入り浜池)の水源、水量、水質、水生動物の種類、池の周りの植物、入浜の林縁・海岸植物の種類と状態。
- III、入浜周辺のゴミをどうするか。今後どの程度の保護が必要か。

参加者 15 名が次の 4 グループに分れ、調査活動を実施しました。

- ①,測量と地図作成 末原さんを中心に本格的な測量に取り組み、まもなく立派な地図ができ上がります。水位の調査は前田さんが行いました。
- ②,池の水質調査 舛田さんを中心に、女性数人で COD と pH の測定から始めました。(右測定結果)
- ③,水生動植物調査 六重部 高光さんグループは水生生物の採集を行いましたが、用具の準備不足で十分ではありませんでした。
- ④,入浜全般の動植物調査 小方さんグループは池の周辺、林縁、道路脇など植物の調査。いず



入り浜池(仮称)



れ詳細な報告をされます。

あと2回の調査が計画されていますが、必要なら臨時の調査も実施し、楽しみながら調査をすすめ、今年度中には結論を出したいと思っています。

地点	COD	pH	水温	備考
A	7	6	20.1	水面にゴミ
B	4	6	16.6	
C	なし	6	14.3	伏流水あり
D	7	5.5	18.8	山水の流入点
E	7	5.5	18.8	山水の流入
F	5	6	18.1	



測量作業

「みせん」次号発行予定

発行日 9月1日
原稿締切 7月末日

クロバイ イワタイゲキ 新緑の公募観察会

大元～室浜～広大植物実験所

日時 5月7日(日) 9:00～16:00

(参加者) 足立 池下 井上 小方ペア
佐渡 佐藤 島 新川 末原 高光
中道 名越 野呂田 平山 前田(勲)
舛田 村上 森 横路 六重部

田中自然保護官 一般参加者 49名

緑あふれるこの時期の宮島の山は、あちこちに綿帽子をかぶったような木々が見られ、これを「5月の宮島の雪」と表現するのだそうです。この白い花はコジイ(ツブラジイ)の雄花です。

参加者を6グループに分け、それぞれPVがリーダーとなり出発です。先ず目に留まったのは崖の途中に息づいた宮島シモツケの白い花、この植物は宮島では数少ない植物であり、保護しなければ、やがては島から消えていってしまうのかも知れません。

次に花もその生態もおもしろい南国ウラシマソウ、生育の良い株に種を实らせ、子孫の繁栄を確かなものにするのでしょ

うか。宮島の海岸には、内陸部に見られない植物。ハマゴウ、イワタイゲキ、これらの植物は砂



昼食時にシカ保護紙芝居

浜の減少とともに生育場所がだんだんと少なくなっています。

海辺から少し離

れてウバメガシ、カギカズラ、イタビカズラ、クロバイ・・・宮島では普通に見られる沢山の植物に出会って、室浜に着いたのは予定時刻をかなり過ぎ、今日の目的の一つ、イワタイゲキの見られる浜で遅い昼食となった。

午後、室浜砲台跡の見学の後は、今日のもう一つのメイン行事、広島大学宮島自然植物実験所の坪田先生による宮島の植生のお話。興味深かったのは、宮島の日当たりの良い山

地に、はびこるシダ(コシダ、ウラ

ジロ)は、他の植物を排除して育っていて、樹木の植生の妨げになっているように見えるが、土砂の流出防止など、一定の(重要な)役割を果たしているとのことでした。

宮島の植生のお話を最後に、帰路につきましたが、朝からの雨の中、予想外の多くの参加者があったことは、改めて宮島の自然と文化に関心を寄せる人が多いと感じました。

(高光 幸三)



イワタイゲキ

下見会でネイチャーゲーム

日時 4月29日(祝) 9:00～15:00

(参加者) 池下 井上 小方ペア 小川
島 新川 末原 中道 名越 野呂田
平山 前田(勲) 村上 柳瀬 横路
高木自然保護官

5月7日の公募観察会の下見を4月29日に行いました。この日は「みどりの日」ということもあり「色」に関するネイチャーゲーム「自然の中のいろさがし」を横路さんの指導で行いました。

参加者は○自分の色○見つけた場所○この色を選んだのは何故?の3項目で6分間室浜砲台付近を探し、一人30秒という時間の中で発表しました。

春ということもあり芽立ちの美しさ、不思議を発表した人、職業柄つい目に入った色、家紋にまつわる話、女性は紫(すみれ色)が好きという発見などがあり各人の着眼点、興味の対象など“色”に込める思いが表れて親睦が深まり楽しかったと好評でしたが、自分の色という項目が最初にあったので、ついそれにこだわり過ぎたという意見もありました。

これからも新たな試みをしてみたいと思われる方がおられましたら積極的に活動して欲しいと思います。

(野呂田 恵子)

平成 17 年度 P V 活動記録

平成 17 年 4 月～18 年 3 月

	開催日	行 事	参加人数	備 考
総会 等	4/9 (土)	平成 17 年度定期総会	34	小なきり浜清掃
	12/3 (土)	研修会・部会打ち合わせ	25	大平先生「気象の話」
観察 部会	4/24 (日)	公募観察会・春の植物観察	18	
	10/16 (日)	〃 歴史文化探訪	12	
	11/23 (祝)	〃 秋の植物観察	24	
	H18 2/5 (日)	〃 鷹ノ巣山・砲台跡	26	
	5/5 から 4 回	海岸植物調査・宮島近辺 18 ヶ所	延 74	5/8,6/4,6/11
	6/17 (金)	岩国城山の植物観察	8	
	7/24 (日)	盛夏の植物観察・鷹ノ巣・入浜	16	
	9/23 (祝)	弥山・秋のタカの渡り観察	7	
	10/15 (土)	ベニマンサク観賞会	7	おおの自然観察の森
	12/4 (日)	向宇品観察会・ツチトリモチ	9	
	12/10 (土)	岩国吉香公園・歴史文化	15	
	H18 3/26 (日)	早春の宮島暖帯植物観察	13	
	5/21 (土)	鷹ノ巣砲台跡清掃、整備	21	
環境 整備 部会	8/7 (日)	自然公園クリーンデー	22	
	10/1 (土)	名板取り付け作業・保守点検	10	
	10/29 (土)	紅葉谷公園内の歩道補修清掃	5	
	H18 2/25 (土)	コバンモチ点検・岩船登頂	21	
その 他	7/9,10 他 2 回	J P R 活動支援	延 17	9/3,4 10/15,16
	9/11,15,17	土石流災害復旧支援	延 29	台風 14 号 (9/6)

「お世話になりました」

残念ながら 4 月 1 日をもって東京に転勤となり宮島 P V を退会しなければならなくなりました。4 年前第 2 期の募集で参加させていただき、以来皆さんと楽しく活動させていただき、有難うございました。

この 4 年間には鷹ノ巣砲台跡の整備、コバンモチ保護ネット取付け、岩船岳登山、包ヶ浦の倒木整理、そして昨年の土石流災害復旧の手伝いなど印象深い活動が多々ありました。

別に所属している自然観察のボランティア団体とは性格も手法も異なり地域との関わり方、行政との関係、組織や役割分担の在り方など、双方を比較しながら活動することによって私自身多くの貴重なものを得ることができました。

転居先でもいずれ同じような活動をしてい

退会あいさつ 山根 浩二

こうと考えていますので、これは大きな財産になったと喜んでいきます。

宮島 P V の活動の舞台は、その自然も歴史も世界レベルのフィールドです。あまりに身近すぎて普段は意識しませんが、そんな特別の場所で活動できたことを誇りに思っても間違いじゃありませんよね。

P V の皆さん、本当にお世話になりました。まずはお体を第一に、そしてこれまで以上に楽しく有意義な活動をされるよう、遠くから応援しています。

最後に、前保護官の桧垣さん、そして現保護官の高木さんには、職場も近かったということもあり、親しくしていただいてありがとうございました。感謝しています。またどこかでお会いしましょう。

御床浦から 岩船岳登山

日時 2月25日 8:00~17:00

(参加者) 足立 池下 井上 小方(嗣) 小川
佐藤 柴田 島 末原 高光 坪井 中道
中本 野呂田 平山 古川 前田(勲)

前田(正) 村上 矢吹 横路 高木保護官
宮島口桟橋を8:00出発。舟3艇で御床浦に上陸。登山口はわかりにくいところだった。昔、開拓団が居たとかで、石垣が残っている。谷を過ぎたところからはしっかりした道がついていて、迷うことなく、御床山に10:12到着。ここから少し下った岩の上から沖の景色を堪能する。御床砲台跡の廃屋もよく見える。3人の勇士のみ砲台探検に向ったが、他の者は後戻りして、岩船岳へ、途中、約半数が岩山を迂回すべきところを岩山に登った。目印のテープをみていれば迷うことはないはずなのに……。それでも11:38には岩船岳頂上に到着。ぽかぽか陽気で爽快、来て良かった。こんなにすばらしい景色を観られない不参加の人は気の毒だ。

のんびりと昼食をとって、12:36帰路につく。大川浦との分岐点でやっと、3人の勇士と合流し、21名無事に多々良潟～奥の院の舗装道に戻ってきた。ここで一旦は解散となる。8人は多々良潟経由の「らくらくコース」へ、残った13人は更に山越えをし、大元公園～弥山の登山道に16:25到着。最後は、お茶を飲んで反省会まで



岩船岳登頂でPV体耐力資格?OK・・

して楽しい一日が終った。末筆ですが、下見をし、目印のテープを巻きつけていただいた横山さんにお礼申し上げます。

(小方 嗣彬)

入浜湿地の下調べを兼ね

春の植物観察会

日時 3月26日(日) 9:00~16:00

(参加者) 池下 小川 近藤 新川 末原
田村 西 野呂田 前田(勲) 村上
森川 柳瀬 横路 高木自然保護官

今回は「早春の宮島・暖温帯植物の観察」と「入浜淡水池の生き物調査」の下見を兼ねた自主観察会である。コースは前回大好評だった公募観察会(2月5日)と同じルートで鷹ノ巣



砲台跡に登り、入浜へ下るルート。包ヶ浦を9:30

に出発、さくらはまだつぼみを閉じたままだが、ヒサカキ・タイミンタチバナ・イヌガシなどの常緑樹は枝々に満開の花をさかせている。シキミやアセビの花も最盛期間近を思わせる。

砲台跡から入浜への下りコースは包ヶ浦とを結ぶ旧道だったのか?シイノキの老木、大樹も数本見られる常緑樹の林。昼前に入浜に到着。今回は入浜湿地の下調べとして周囲をぐるりと巡って次のことを調べた。

① 河川の流入と排水経路②汽水湖となり得るか③池の周辺の状況・植生

相次ぐ台風による土砂堆積や漂流物の打ち上げ、排水路の閉塞、レジャー客による海岸線のゴミ・・・などで厳しい状況に見受けられる。

(横路 晃)

宮島の桜調査に参加して

佐藤 庸夫



今年から、私にはもう桜が桜でなくなった。サクラが咲いていると云わなくなった。あの花は「大島（桜）」であり、こちらは「江戸彼岸」あれば「山桜」であり、あの満開は「染井吉野」である。たったこれだけ覚えただけでサクラのプロになった様な気分だ。歩きながら桜（ハ）を見る目も変わった。観察する眼になった。

皆さん方はよくご存知なので、ここではこれらの見分けかたは書かない。しかし、私にとっては雑草と言っていた草に名前が付いていたような驚きであった。伊豆大島が原産？という、ツンと澄ました清廉な「大島桜」はとくに気に入った。今までこの白い花に全く気付かなかったし当然桜餅の葉っぱなんて初めて知った。

紅い華の「エドヒガン」なんていい響きだ。ちょっとだけ、観察指導員の方の楽しさが解った。

3月29日を皮切りに計5日、調査に参加させて頂いた。種類・樹齢・元気の良さ・直径等々。（調査期間は3/27～4/7 桜2254本）



子規の句碑の前で

又、調査中亀居山（塔の岡）で正岡子規の句碑「汐満ちて

鳥居の霞む入江かな」と明治39年3月陸軍大将 桂太郎の石柱を発見？した事も感激。誘って頂き、大調査の音頭をとられた井上さんに感謝、感謝。

桜調査参加者（井上さん以外のPV）

池下（2）佐藤（5）末原 中道 野呂田
（3）平山（2）前田（勲）（3）村上（3）
横路（4）六重部（3）（ ）内参加回数

“阿多田島” 観察会

日時 6月10日（土）9:15 集合（小雨決行）

集合場所 小方港（大竹市）

（ゆめタウンのすぐ南です）

参加申込 舩田まで 〆切 6月5日（月）

FAX 082-842-0356

MAIL masu-da@ms7.megaegg.ne.jp

観察会としては初めて阿多田島（大竹市）に渡り、島の植物、磯の生き物を観察します。

◇ 編集後記 ◇

▼昨年の海岸植物調査の経験を踏まえて、今年度は入浜の自然環境回復には何をなすべきかの調査活動が始まった。単なる現状把握ではなく、一步踏み込んで水質測定、水位測定、現地の測量まで予定しており、大きな成果が期待される。いずれ調査が終わった時点で総合的に報告書にまとめ、しかるべき人々に説明すべきであろう。できるだけ多くの会員に協力していただきたい。（足立）

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

（〒730-0012）

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎2号館6階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

（〒739-0505）廿日市市宮島町1862-18
（宮島栈橋2F）